

世界農業遺産（GIAHS）及び家族農業に関する 国際シンポジウム2022結果概要

1. 日 時：令和4年11月28-30日（月-水）
2. 場 所：お台場ヒルトンホテル サンライズテラス（オンライン併用）
3. 参 加 者：国内外のGIAHS専門家、農業者、研究者、GIAHS認定地域関係者、FAO事務局関係者等。農林水産省からは、谷村輸出・国際局審議官が出席し、開会の挨拶を行いました。

4. 概 要：

本シンポジウムでは、GIAHSを通じた食料安全保障や家族農業者による、農業生態系に配慮した生産の持続可能性の確保、景観管理の促進、土地に根差した伝統的な知識、文化、社会的価値の移転の促進によって、「国連家族農業の10年」の世界行動計画における第7の柱（多面的機能／多就業）の実現に向けて検討することを目的として実施されました。本シンポジウムでは、関係者からの講演及び3つのサイドイベントが実施されました。

(1) セッション及びサイドイベントのトピック

- ・ GIAHS 認定地域における農産物の市場振興に係る取組
（表示、認証、新たな供給網の構築・新規需要、ニッチ市場等）
- ・ 農家の市場販売戦略のあり方と農家の課題
- ・ 規模の小さい家族農業者が市場販売促進活動に参画し、活動によってもたらされる経済効果から裨益するために必要な条件

(2) 登壇者及び参加者からは、以下のコメント・意見がありました。

- ・ 農業は一人では出来ないため、家族農業においても生産組合は重要。
- ・ 認証制度の付加価値を消費者に理解してもらうということが今後の課題。取組内容は評価されるものの、価格は慣行品と同程度を望む消費者がほとんど。また、取組に労力がかかることから、実践する農家の数は近年減少。
- ・ 政府だけでなく、観光セクターも含む全セクターの参加の推進が重要。
- ・ 小規模生産者は、食品の品質や食品安全、バリューチェーンの調整、規格の策定、官民連携等に課題を抱えている。小規模生産者のエンパワーメント、技術支援、十分な政策及びリソースの確保等が必要。

以上

【登壇者（シンポジウム及びサイドイベント）】

遠藤 芳英	FAO 世界農業遺産コーディネーター
日々 絵里子	FAO 駐日連絡事務所長
Florence Tartanac	FAO 食品栄養部上級担当官
船橋 玲二	NPO 法人「たんぼ」理事長
佐藤 敬美	大崎市産業経済部世界農業遺産推進課長
高瀬 和寛	大崎市産業経済部世界農業遺産推進課主事
五十嵐 麻湖	佐渡市農林水産部農業政策課トキ・里山振興係主事
佐田 康稔	静岡県経済産業部農業局お茶振興課技監
豊永 恭代	徳島県西部総合県民局農林水産部課長補佐
大島 理仁	徳島県つるぎ町役場産業経済課課長補佐
有田 高志	滋賀県農政水産部農政課
松本 謙	株式会社ファーマーズ・フォレスト代表取締役
土屋 裕子	静岡県川根本町つちや農園
福田 翔太	宮城県大崎市 FKDfarm
Wenjun Jiao	中国科学院地理科学・自然資源研究所教授（中国）
José-María García-Alvarez-Coque	バレンシア大学経済社会科学部教授（スペイン）
Susan Luzio	アルト・タメガ開発機構（ADRAT）（ポルトガル）
Teresa Agüero	農業省（チリ）
谷村 栄二	農林水産省輸出・国際局審議官